

セッション2

贖いの共同体と神の国

社会の中で信仰によって生きる

教師用ガイド

贖いの共同体と神の国 ディスカッション・ガイド

今週の読書課題について

クリスチャーの共同体は、神の国をこの世の人びとにとってより関わりやすいものとするために重要な役割を果たしています。今週の論文では、その核となる部分、すなわち、クリスチャーの共同体とクリスチャーの使命が相互に依存しているということについて、つまり、個人や社会がイエス・キリストに出会って本当の変化を体験するのは贖いの共同体にあって、また、それによってであるということの説明をしています。

教師のための覚え書き

今日の世界では、教会活動を行う一つの標準的方法というものはありません。プロテスタント教会とカトリック教会とでは違いがありますし、またそれ以上に、アメリカ合衆国のメガチャーチと中国のような国の小規模なハウスチャーチとでは、そのスタイルも規模も全く違っています。また、教区教会のように近隣地域に関心を持ち、教会員自身その地域出身である教会もあれば、教会員が地理的にも広範囲のところから通ってきている都市型の教会も存在します。

この論文では、*共同体*という言葉は、交わりと礼拝のために定期的に会うクリスチャーのグループを意味しています。この言葉には継続している深い関係という意味が含まれています。共同体という言葉は、場合によっては、教会、会衆、交わりといった言葉と同義語であることもありますが、21世紀においては教会のあり方が多様化しているため、かならずしもそうであるとは限りません。

私たちがクリスチャーとしての自分の使命を持ちながら、共同体の中でどのように生きていくかは、状況によっていろいろな形が考えられます。この学びは、あなたが今所属している共同体について考え、その共同体の贖いの資質をいかに高めるか、あるいはどのようにして贖いの共同体となっていくか、その最善の方法を見つけていくための助けとなるように構成されています。ディスカッションでは、これらの点を評価し、どのように行動していくかに焦点をあてて話し合ってください。

宣教機関で働いている人のための覚え書き：

この論文では、*使命*という言葉は、ある特定の機関の使命や個人の使命という意味ではなく、教会の使命という、より広い意味を持つ言葉として使われています。もちろん各機関は教会に与えられた全使命の内、ある特定の分野に焦点を当てて奉仕することができます。けれども私たちは皆、一人の人間として教会の一部である訳ですから、自分の所属機関の責任を、教会全体の使命という観点から理解することが大切ですし、また、所属機関の使命以上の責任を担っていることを念頭に入れておくことが大切です。

もし私たちが、自分の個人的な責任は所属機関の責任を超えるものではないと考えてしまうならば、この地上でキリストの代理として生きている私たちの生き方は、一貫性のないものになってしまう恐れがあります。例えば、社会正義に焦点を当てている機関で働く人について考えてみましょう。その機関が社会正義に焦点を当てて活動するのは良いことです。でも、その機関で働くクリスチャーは、福音宣教など、その他の使命に対しても責任があるのです。宣教に焦点を当てている機関で働くクリスチャーについても同様です。彼らの個人的な責任は宣教だけでなく、社会正義などの問題にも及ぶのです。

学びの目的

- 1) 共同体と使命についての聖書的な立場とはどのようなものであるか、グループのメンバーが自分の考えを持ち、かつ、それを表現できるようになること。(各自の立場は多少異なることもあり得ます)
- 2) 学習者が、現在所属している共同体について評価し、そして、この世にキリストを知らしめる贖いの共同体に生きるために必要な具体的な計画を作り始めること。
- 3) 人々との関係を広げるパーティーを主催して、「窓と扉」を作り始めること。

資料

- ・ル・シャンボン村の物語：変革する共同体。「社会の中で信仰によって生きる」のディスクに入っています。
- ・「精神の武器」(The Weapons of The Spirit) (ル・シャンボン村についての映画。Amazon.com で入手可能ですー英語・仏語版のみ)
- ・「精神の武器」の台本。この学びに含まれています。

学びの構成

この課の学びには2時間半を予定してください。

20 分間

ディスカッションを開始させる題材として：精神の武器

30 分間

ディスカッション：贖いの共同体と神の国

30 分間

ディスカッション：共同体と使命を関連させるための聖書的根拠

30 分間

評価とディスカッション：現在の共同体の現状について

25 分間

プロジェクトについてのディスカッション：人々との関係を広げるパーティーを主催する

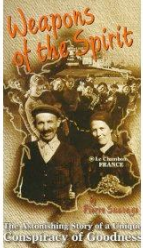
注意点：プロジェクトは課題の読書を終えて、ディスカッションをする前に行うように構成されています。プロジェクトの課題は必ず読書課題と一緒に与え、各メンバーがプロジェクトについての話し合いの準備をして来ることができるようにしてください。

10 分間

まとめと課題：

ル・シャンボン村と精神の武器
導入とディスカッション
20 分間

精神の武器 (The Weapons of the Spirit)—Amazon.com で入手可能 (英語・仏語版のみ)



精神の武器は、たぐいまれな「善意の陰謀」についての驚くべき物語です。ピエール・ソヴァージュが脚本、製作、監督を務めたこのドキュメンタリー映画は、第二次世界大戦中、ナチス・ドイツに占領されたフランスのル・シャンボン・シュール・リニオンという村の物語です。ソヴァージュは、貧困にあえぐクリスチヤンの農民の共同体が 5000 人のユダヤ人に隠れ家を提供したル・シャンボン村で生まれ、守られました。

米／仏合作、1989 年、90 分 (完全版)、カラー—35mm、16mm、DVD, ビデオ
米／仏合作、1990 年、35 分 (短縮版)、カラー—DVD、ビデオ
英語 (一部フランス語)、字幕付き
フランス語のナレーション版 : Les armes de l' esprit

1. ドキュメンタリー映画「精神の武器」の一部 (あるいは、映画の台本) をディスカッションの導入として使用してください。
2. 論文「変革の共同体：ル・シャンボン村の物語」を使って、ディスカッションへと進めてください。この論文には論文と合わせて使えるディスカッション・ガイドが付いています。このガイドは映画「精神の武器」やその台本と一緒に使用することもできます。
* 同論文とディスカッション・ガイドは、贖いの共同体のファイルに入っている「社会の中で信仰によって生きる」のディスクの中にあります。
3. 映画の中で、共同体があるべき姿で描かれているシーンか墮落した姿で描かれているシーンを選んで、そこからディスカッションを始めてください。

贖いの共同体と神の国

30 分間

ディスカッションの目的：学習者がディスカッションを通して、共同体と使命についての自分自身の意見をまとめ、それを表現できるようになること。ディスカッションによって、間違っていて理解していた点を明らかにし、それを修正できるようになること。ディスカッションによって同意できる点と同意できない点を明らかにすること。最後に、学習者がディスカッションによって、使命と共同体という課題に取り組み続けることができるように動機づけられること。

ディスカッションの質問例：

全体的な感想について：

1. この論文についてあなたが最初に感じた気持ちは、次のどの言葉が最も適格に表現していますか。役に立つ、不安を覚える、驚いた、素晴らしい、ばかっている。それは何故ですか。論文の中のどの概念が、その言葉を選ぶ理由となっていますか。

論文の中で定義されている使命について：

1. この論文の中で使命として定義されていることは、あなたがこれまで思っていたことと違っていましたか。

2. 使命とは「人々に贖いをもたらす共同体を築き、その中において、またそれを通して、この世にキリストを知らしめること」と定義されています。この定義は明確でもありますが、幅の広い定義でもあります。「キリストを知らしめる」の中にはどのようなことが含まれると思いますか。この論文の中で言及されていないことで、追加できること、あるいは追加すべきことがありますか。

3. 使命の定義に関して、著者は言葉の順番を変えて次のように定義することができたかもしれません：「教会の使命とは、キリストをこの世に知らしめることであり、それは、贖いをもたらす共同体を築くことによってなされる」。微妙な変化ですが、意味的に何か違いがありますか。どのように違いますか、どの程度違いますか。あなたはどちらの方が好きですか。

4. 著者はなぜ、贖いをもたらす教会と言わずに、贖いをもたらす共同体という言葉を使っていると思いますか。

贖いの共同体の定義について：

1. 贖いの共同体を定義するにあたって、著者は次の 4 つの基準を挙げています。共同体の中心にイエス様がおられること；共同体及び共同体のメンバーが恵みによって変えられること；共同体がより広い世界の人びとにとって、目に見え、関わりやすいものであること；生きる上での別の価値観、つまり神の国の価値観を提示していること。

これらの基準について話し合ってください。最も役に立ったのは、どれですか。この定義からあなたはどのようなことを学びましたか。論文の中で言及されていないことで、何か追加したいことがありますか。

共同体と使命とを関連させるための聖書的根拠についてのディスカッション

ディスカッションの目的：このディスカッションの目的は、この論文で提示されている概念には聖書的な根拠があることを示すこと、また、学習者に自分の意見を「証明し、さらに証明」する機会を与えることです。

ここで重要なことは、学習者一人一人が、論文の概念と同意見であってもなくても、自分が確信していることをみことばから説明できるということです。また、他の学習者が別の結論に達した場合、どのようにしてその結論に達したかを理解することができ、そして、その結論を尊重しつつ、みことばからそれについて判断することが大切です。

共同体の観点から見た使命について、みことばから再評価する：

1. 論文の中の使命の定義には、聖書的な根拠があるでしょうか。それは何故ですか、あるいは、何故根拠がありませんか。

教会の使命は人々に贖いをもたらす共同体を築き、その中において、またそれを通して、この世にキリストを知らしめることです。

2. エペソ2章の観点から大宣教命令を見ることによって、著者はみことばによってみことばを吟味し、理解するよう試みています。それは、もっと広い全体的な視点から使命と共同体について考えるためです。

このように聖書を見ることの利点と不都合な点は何ですか。共同体と使命について、さらに理解を深めるためには、聖書の他のどの箇所を読めばいいでしょうか。その聖句からはどのような視点が得られますか。

3. クリスマスの使命と贖いの共同体とを関連させることには、聖書的根拠があるでしょうか。それは何故ですか、聖書的根拠がないなら、それは何故ですか

大宣教命令：

大宣教命令を読み、その命令の各部分に関する論文の説明を見てください。この聖書箇所についての論文の説明の中で、あなたが特に好きな部分はどこですか。分からない部分はどこですか。賛成できない部分はどこですか。それは何故ですか。

エペソ2：19-22を読んでください。

1. この論文には、私たちの使命は神のより大きな使命の一部ですと書かれています。このことはこの聖句によって正しいとされますか。それは何故ですか。されないならそれは何故ですか。この結論の根拠となるその他の聖句はありますか。

2. この論文には、神のご計画は私たちの個人的な救いよりもさらに大きいと書かれています。このことはこの聖句によって正しいとされますか。それは何故ですか。されないならそれは何故ですか。この結論の根拠となるその他の聖句はありますか。

3. エペソ人への手紙のこの箇所は、教会の使命と贖いの共同体を関連させる上で、十分な根拠となっていますか。この結論にさらに十分な根拠を与えることが出来るのは、聖書の他のどの箇所だと思えますか。

4. この論文は、神がご自身の民と共におられるということの目に見えるしるしが教会であり、それはちょうど旧約聖書において神殿が担った役割と同じであると示唆しています。あなたはこの意見に同意しますか、しませんか。

評価とディスカッション

現在の共同体の状態

30 分間

ディスカッションの目的：ここでは学習者が自分が現在所属している共同体での生活を正直に見つめ、贖いの共同体に生きていくためにはどのような行動をとるべきか、1つあるいは複数の点を挙げられるように、助けてください。

全体的な質問

1. この論文は共同体に関する注目すべきビジョンを提示していますか。何故、提示していると、あるいは提示していないと思いますか。
2. この論文は使命に関する注目すべきビジョンを提示していますか。何故、提示していると、あるいは提示していないと思いますか。
3. 窓と扉という概念は、あなたの想像力を刺激しましたか。その場合、論文のどの部分に最も興味を持ちましたか。この論文には取り上げられていない窓あるいは扉で、あなたが考慮したいと思うものがありますか。

贖いの共同体を評価する 4 つの基準にしたがって、あなたの現在の共同体、交わり、会衆、教会を評価してください。

1. あなたの共同体は、どの程度キリストをその中心に置くことが出来ていると思いますか。あなたのグループはどの点で強さを発揮しますか。どの点で弱いですか。その点で成長するにはどうすればいいでしょうか。
2. 共同体に所属する個人は恵みによって変えられていますか。この変革に関して、共同体はどのような役割を果たしていますか。共同体はメンバーの個人的な成長に関して、積極的に貢献していますか。どのように貢献していますか。もし貢献できていないなら、グループが成長するためには、今までしていなかったことでどんなことを試みることが出来ますか。
3. あなたの共同体は外の世界の人びとにとって、目に見え、また関わりやすい共同体ですか。あなたの共同体では、どの窓、どの扉において優れていますか。どの窓、どの扉についてより優れた共同体になりたいと思いますか。
4. あなたの共同体は、外の世界の人びとに、別の価値観、すなわち神の国の価値観を提示していますか。どのように提示していますか、また、どの部分を提示していますか。もし提示できていないなら、あなたのグループはどのようにしたらそうし始めることが出来ると思いますか。神の国の価値観は外の世界にどの程度受け入れられていると思いますか。

ある特定の宣教機関の中でこの学びを指導している人のための大切な注意点：

次のディスカッションが役に立つでしょう。あなたのスタッフや仲間が宣教機関の使命と教会の使命との違いをしっかりと認識し、そのうえで自分の個人的な召命がどのようにこれらと関わってくるかを理解していることが大切です。今週の課題についての説明箇所にある教師のための覚え書きを参照してください。

1. あなたの弟子たちの多くはあなたの所属機関で働くようになる訳ではないので、教会の使命を主眼として、すなわち、社会正義の課題及び福音宣教と弟子訓練の課題の両方を念頭におきつつ、弟子訓練をすべきであるというのは正しい考え方でしょうか。それは何故ですか。
2. 同意する／同意しない—「個人として、私たちは所属機関の責任以上の責任を負っている」
3. 私たちは自分自身が全体的な視点を持って生きていないなら、全体的な視点で弟子訓練を行うことができるでしょうか。言い換えると、私たちが社会正義とか、福音宣教と弟子訓練といった宣教機関の限られた使命にだけ焦点をあてて活動しているとすれば、全体的な視点を持った弟子を育てることが出来るでしょうか。
4. 自分の所属機関の特徴を見失うことなく、より広い意味での使命に焦点を合わせて弟子訓練するにはどのようにすれば良いでしょうか。
5. 私たちはこれまでに、個人的に、あるいは、機関全体として、機関の使命にばかり焦点を当てたために、教会の使命を軽視してしまうことがあったでしょうか。その場合、どういう点で軽視したでしょうか。

プロジェクト・ディスカッション

人々との関係を広げるパーティーを主催する

25 分間

この評価はグループで行なうように構成されています。もしあなたのグループが人々との関係をひろげるパーティーを個人で行なったのであれば、一人一人に時間を与えて、以下の質問を使って結果報告をさせてください。

1. あなたはクリスチャンでない人たちとパーティーの場であまり交わらなかったり、交友の場で自分を隔離していませんか。どの程度そういうことが起こりましたか。
2. あなたの人的ネットワークをパーティーの場で交流させることは、快く自然にできましたか。
3. 人々との関係を広げるパーティーの目的は、あなたの社会的ネットワークを広げることと、あなたのクリスチャンの友人、クリスチャンでない友人、また、あなたのグループや共同体の人びとの友人たちと抵抗なく交流できるようになることです。この目的はどの程度達成されましたか。
4. パーティー自体はどうでしたか。うまく計画できましたか。来てほしいと思っていた人は来ましたか。楽しかったですか。様々なネットワークの人が来ましたか。クリスチャンもクリスチャンでない人も来ましたか。
5. あなたはあなたのクリスチャンでない友人との関係をさらに深めることができましたか。

6. あなたは有機的に交流させることができましたか。つまり、友人の友人であるクリスチャンでない人と少なくとも一人と友達になりましたか。また、あなたのクリスチャンでない友人を最低一人のクリスチャンの友人に紹介しましたか。

7. 招待した人たちの間でぎこちなさを感じることはありませんでしたか。もし、感じたなら、それは何故でしょうか。

8. 会話はどのように進みましたか。全員が会話に参加できていましたか。

変革の共同体：ル・シャンボン村の物語

1930年—40年代、ヨーロッパ中心部において、想像を絶する悪意に満ちたことが行われました。ナチス・ドイツが台頭し、「ユダヤ人問題の最終的解決」と呼ばれる虐殺計画が実行に移されたのです。最終的には600万人以上のユダヤ人がナチスの強制収容所で殺害されました。1940年、フランスはドイツに降伏し、歴史上最大の悪の一つにフランスが協力するという道を開いてしまいました。フランスは最終的には7万5000人もの人々を死へと追いやりました。その中には1万人もの子どもが含まれていました。

フランス中南部の山間にル・シャンボンという小さな村があります。その共同体は貧しい農民とその家族で構成されています。その多くがユグノー派の家系の人びとです。共通の信仰を持っているという絆、そして、一人一人が自らもひどい迫害を受け続けてきた歴史を共有しているという絆で結ばれたこの共同体は、ナチスの暴虐に対する非暴力による抵抗運動の拠点となりました。後に「善意の陰謀」と呼ばれることとなる行為において、ル・シャンボン村の人びとは変革の共同体を素晴らしい形で表現しています。

戦争が行われていた期間を通して、ル・シャンボン村の人びとは自分と同じ国の人びとに抵抗し、法律を無視してまで自分の家を提供し、5000人ものユダヤ人をナチスからかくまいました。そして、これらの追われている人々を組織的に中立国スイスに逃がす手助けをしました。この共同体がこのような善意の陰謀を行なうことができた要因は何だったのでしょうか。

ル・シャンボン村はフランスでもわずかに残っていたユグノー派の小さな共同体の一つでした。ユグノー派はカトリックの国フランスにおける最初のプロテスタントのクリスチャンで、何百年にもわたって差別と迫害を受けていました。1572年に起こったサン・バルテルミの虐殺においては、少なく見積もっても約1万5000人のユグノー派クリスチャンがフランスで殺されました。彼らのフランス国民としての権利は奪われ、長年に渡る宗教的迫害が始まりました。

何世紀も続いた迫害を経験し、また、隣人を愛せよという聖書的価値観を持っていたユグノー派の人びとは、できる時はいつでも積極的にこの悲惨な事態の緩和に努めました。過去に忍耐した記憶によって強い連帯感が生まれ、それが彼らのアイデンティティとなりました。

ナチスによるユダヤ人虐殺に至るまでの何十年間というもの、ル・シャンボン村の人びとは、産業革命から逃れてきた人々（病気の人や困窮した人々）やスペインの内戦から逃れてきた人々の世話を懸命にするなど、彼らの信仰に忠実に生きてきました。そして、1940年にフランスがドイツに降伏した時、「あなたの隣人を愛せよ」の教えをヨーロッパ中のユダヤ人にまで広めたのです。

アンドレ・トロクメ牧師は、「クリスチャンの務めは自分の良心にかけて暴力に対抗すること、またそれを霊の武器によって行うこと」と説く平和主義者でした。

トロクメ牧師の指導の下、ル・シャンボン村の共同体は自分の家にたどり着いたすべての人々に安全な隠れ家を提供しました。支払うことのできた人は支払いましたが、多くの方は彼らをかまうために命をかけていた貧しい家族によって養われました。若者に教育を受けさせるための学校も作られ、健康管理も施されました。そして、5000人のユダヤ人がこのプロテスタントの共同体に友人として、家族として迎えられたのです。

何年もたって後に、どうしてこのような危険なことに参加したのかと聞かれ、ジョーゼット・バローさんはこのように答えました。「私は彼らが助けを必要としていたから助けただけです。彼らをここに迎えることができたのは、人々がまだ何かを信じていたからだと思います。聖書には空腹の人には食べ物を与え、病気の人を訪ねるように書かれています。そうすることは普通のことです。」

この教区のユグノー派の人びとは、「私たちは、敵が福音の教えに反することに従うよう要求してきた時にはいつでも抵抗します。恐れを持たず、そして、プライドと偏見も持たず、抵抗します」というトロクメ牧師の戒めを真剣に受け止めました。

この善意の陰謀は、共同体としての企てでした。しかし、それはまた、一人一人の良心にゆだねられたものでした。共同体の人びとは他の人たちが何をしているか、必ずしも知っている訳ではありませんでした。けれども彼らはお互いを信頼し、共同体の各メンバーが福音に従って行動していると信じていたのです。共同体が個人に勇気を与え、一方で、強い個人が屈することのない共同体を作り上げました。

善意の陰謀は地元のユグノー派だけにとどまりませんでした、数人のカトリック教徒や福音派の人びともこの活動に参加しました。さらに、味方から敵へとその輪は広がっていきました。地元の警察は情報を得てもそれに従って行動せず、ル・シャンボン村の人が逮捕された例は限られていました。「善意の陰謀は、一度始めたら、誰が巻き込まれるか分かりませんから」と、地元の人たちはこのように説明するのです。

この活動は、ドイツ軍がル・シャンボン村に入ってきて、地元の2軒の宿がナチス将校たちの休息・回復の場として接收されてからも続けられました。このことによって共同体が瀕している危険度はますます高まりましたが、しかし、救援活動が中断されることはありませんでした。

ル・シャンボン村で起こったことは、贖いの共同体を通して信仰が行動となって表れた素晴らしい例です。善意の陰謀は、ル・シャンボン村の人びとが主イエス・キリストの愛と施しの教えを喜んで生きたことによって可能となりました。けれども、善意の陰謀は強力でもありました。そしてそれは、ル・シャンボン村の人びとが、信仰で結ばれた共同体としてこれらの教えを生きたために強力になることができたのです。共同体がいのちを懸けて隣人を愛したこと、それはただ単に正しいことではなく、そうするのが普通のことだったのです。

戦争が終わって、ル・シャンボン村はドイツから解放されました。そしてユダヤ人たちは生活を立て直すために去って行きました。福音のためになされた愛と親切の行為は受けた人々の心にずっと残るものとなりました。戦争中、ル・シャンボン村で長年隠れていたユダヤ系ポーランド人のジョセフ・アトラスさんは、こう説明します。「私はル・シャンボン村のことを忘れませんでした。意図的に忘れたのです。なぜなら、私は悪夢から這い上がろうとしていたからです。ル・シャンボン村の人びとはそのことで傷ついたかもしれません。私たちが彼らの親切に対して感謝していないと思ったかもしれません。でも、そんなことはありません。彼らの親切はいつも私の心に残っています。けれども、私には、ユダヤ人が通らなければならなかったこの悲劇について吸収し、理解し、乗り越える必要があったのです。」

ディスカッション・ガイド

1. 共通の信仰を持っているという絆、そして、一人一人が自らもひどい迫害を受け続けてきた歴史を共有しているという絆で結ばれたこの共同体は、ナチスの暴虐に対する非暴力による抵抗運動の拠点となりました。

何世紀も続いた迫害を経験し、また、隣人を愛せよという聖書的価値観を持っていたユグノー派の人びとは、できる時にはいつでも積極的にこの悲惨な事態の緩和に努めました。

- ・この共同体がこのような善意の陰謀を行なうことができた要因は何だったのでしょうか。
- ・以下のことはそれぞれ、善意の陰謀を可能とする上でどのような役割を果たしたのでしょうか：共通の信仰、一人一人が自らもひどい迫害を受け続けてきたという歴史、何世紀も続いた迫害、隣人を愛せよという聖書的価値観。

2. クリスチャンの務めは自分の良心にかけて暴力に対抗することであり、また、それを霊の武器によって行なうことです。

この引用は社会の中で信仰によって生きるということを表しています。他の人の暴力によって自分の良心が試されるのです。ル・シャンボン村の人びとは、彼らの時代に起こった悪を個人的に正していくことになりました。彼らは自分たちが始めた訳でも、自分たちに向けられた訳でもない悪に対して責任を取っていくこととなったのです。

- ・今日の私たちは、これほど劇的な時代に生きている訳ではありません。けれども今日、クリスチャンの共同体がこれと同じ教えに従って生きるとすれば、どのような生き方があるのでしょうか。
- ・トロクメ牧師は、ル・シャンボン村の人びとは霊の武器を使って対抗すると述べていますが、これは何を意味しているのでしょうか。

3. 私は彼らが助けを必要としていたから助けただけです。彼らをここに迎えることができたのは、人々がまだ何かを信じていたからだと思います。聖書には空腹の人には食べ物を与え、病氣の人を訪ねるように書かれています。そうすることは普通のことです。

- ・あなたが人を助ける時、普通のこととはどんなことですか。
- ・あなたの共同体は憐れみや社会正義の領域において、どのように共に奉仕していますか。
- ・彼らをここに迎えることができたのは、人々がまだ何かを信じていたからだだと思います。あなたが信じていることを最もよく言い表している聖句はどこですか。また、その聖句に基づいてどのようなことをしたいと思いますか。

4. 私たちは、敵が福音の教えに反することに従うよう要求してきた時にはいつでも抵抗します。恐れを持たず、そして、プライドも偏見も持たず、抵抗します。

- ・あなたの文化あるいは社会において、福音に反することに従うことを要求しているものは何ですか。
- ・恐れもプライドも嫌悪も持たずに応答するということは、どのようなことですか。

5. 共同体が個人に勇気を与え、一方で、強い個人が屈することのない共同体を作り上げました。

- ・この引用は共同体と個人のどちらも大切であるということを教えています。共同体はどのようにして文化に対抗する価値観を普通に受け入れられるようにしましたか。
- ・共同体はどのようにして神の国を見えるように、また、関わりやすいものにしましたか。

6. 善意の陰謀は、一度始めたら、誰が巻き込まれるかわかりません。

- ・人が善意の陰謀に巻き込まれたとしても、もしキリストを知るようにならないなら、神と神の国にとってそれは価値あることでしょうか。
- ・あなたの共同体では、善意の陰謀は どのような形をとるでしょうか。